

第2B(小)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 各種課題に対する支援体制はどうあればよいか
サブテーマ ～校内体制の構築や関係機関との連携のための教頭のあり方～
協議の柱 さまざまな課題解決に向けて、関係機関との連携を、教頭としてどのように進めていけばよいか。

提言者 中津市立大幡小学校 八 丁 誠 一

1 質 疑

- (1) Q 各種会議が組織的に行われているが、時間設定の工夫はどうしているか。
A 支援会議最優先で基本的には勤務時間内で終わらせるようにしている。そのため、その他の会議等はキャンセルしてペーパーで済ませられるものはそれで終わらせる。
- (2) Q 様々な機関との連携がなされているが、心掛けていることはあるか。
A 校長と案件ごとに分担して対応し情報共有し、主幹教諭が情報を整理記録している。
- (3) Q S S Wの活用の仕方はどのようにしているか。
A 事案が発生してから市教委にいるS S Wに連絡を入れ関係機関とつないでもらっている。

2 協 議

- (1) 学校規模は様々あるが、どの学校にも厳しい家庭環境におかれている子どもたちがいる。このような子どもたちに対するケアは、管理職・主幹・教育相談コーディネータが中心となって組織的に取り組んでいく必要がある。教頭が中心となってより風通しの良い組織づくりをする必要がある。
- (2) S S Wや各種機関との連携を教頭が調整する。S S Wが中学校区で配置されている学校では、日常的なつながりが持ちやすいので連携を取りやすい。市に数名配置という形が最も多いが、様々な課題を抱えた家庭が増える中人数を増やしてもらい働きかけも必要。
- (3) 学校規模によって組織の在り方は変わってくる。そのような状況の中、情報管理の要は教頭である。担任、教育相談コーディネータ等をしっかりつないでいく役割。校長と常に情報共有できるように、早め早めに情報を上げていく。

3 指導助言

- (1) S S WやS C等の外部人材を入れると、面倒な面も生じる。しかし、子どもの課題が多様化する現在、様々な価値観をぶつけ合って問題に取り組んでいくことが重要。その際に組織や役割を明確にしておく事で人材が有効に作用する。
- (2) 職員の行動を明確化する。様々な情報を、誰が受けそれを整理してどう動くのか。またそれを記録にまとめ、適宜校長に伝える。さらに、教頭が対応策を具申することも大切。
- (3) 各種会議を進める際の肝は、最初にゴールを示しておくこと。みんなが子どもの応援団として話し合っていこうと押さえておくことで議論を戻すことができる。